#### ~~よみがえれ花輪川~~

# ハ千代オイコスかわら版

第 47 号



令和5年2月15日発行 NP0法人八千代オイコス http://www.yachiyo-oikos.jp/

# みんなでつくるふるさと八千代 ~川や田んぼでの体験をとおして~



八千代オイコス 代表 金室彰

オイコスは元来市民活動団体の中で環境保全の分野に属していますが、地域づくりへの主体的な 参加と、自然との共生という観点から、特に体験型の活動に軸足を置いて活動しています。

私たちが活動している花輪川は八千代市内唯一川に入ることができる川で、水質改善活動を目的に、毎月環境整備を実施。親水性の場を活かし、水・川・生き物等について関心を持ってもらうために小学生を対象に「川の学校」を開催しています。花輪川の遊歩道も整備しながら近隣の住民の皆さんに楽しんでもらいたいと花壇の整備・枯れ枝の除去など清掃活動もしています。

米づくり体験は、みんなでヌルヌルした泥田んぼに入り、田んぼに入った感触や、蛙やトンボなどを探すことに自然と接する楽しさを感じ取ってもらうこと、また、田植えをして草取り・稲刈り・ハザ掛け等の作業を通して、農業の大変さを感じるとともに、細い苗が立派な稲に成長する様子を実感してもらい、稲刈り、籾すりを経て米に変身する様子を知り、それを収穫し、食する喜びを体験出来るようにカリキュラムを組んで行っています。

他にオイコスらしい活動と言えば市内のウオーキングをゴミ拾いと一緒に行うエコウォーキング。ゴミ拾いがメインですが、ついでにウオーキング的な感じが新鮮にうつるのではないかと思います。

せっかく八千代に住んでいるのだから八千代ならではの体験を通して何かを感じてもらえればと 考えて事業を行っています。





## **グレード** 米づくり体験 ~稲刈り・稲架がけ・脱穀~ **ノード**



当初は9月の初めを予定しておりましたが、稲の生育不足ということで農家の山崎さんと相談し、2週 間延期して9月18日に稲刈りを実施しました。台風が迫ってくる中、米づくり体験14家族49名とオ イコス14名が農家の山崎さんから稲の刈り方を教わってから、鎌と刈った稲を縛る紐を持って作業を開 始しました。朝は雨が降っておらず何とか持ちそうだったのですが残念ながら 11 時過ぎ頃から雨が強く なり、稲架掛けの途中で終了とさせてもらいました。例年ならば田んぼの周りで昼食をいただくところで したが、残りの稲架掛けは途中で中止することとしました。

3日後の晴れ間の時にオイコスメンバー5人で残りの作業を行いました。稲束は8割以上が畔などに積 まれており、架ける竹組までは少し距離があるうえ雨に濡れた束は意外なほど重量がありました。また今 年の竹組は高さがあり、架けるのに例年より力を使いました。稲束の量には竹組が不足である事も分かり 追加で竹を組み全員で稲束を抱えて移動し束を架ける作業を繰り返し 12:00 過ぎ 10:00 から 2 時間の作 業を終えました。終了後の会話は、お昼は何を食べようかと、ひとしきり盛り上がりました。

脱穀の日は、絶好の行楽日和でした。体験家族12家族35名とオイコススタッフ11名+講師2名が参加し ました。脱穀作業の開始に先立ちコンバインのエンジンを切り講師から機械の中の解説があり、その後、子ど もたちも頑張ってみんなで稲束を稲架から降ろしながら次々とコンバインに運び、脱穀を進めました。

今年は昨年より多く収穫できたと思います。5月の田植えから開始した「米づくり体験」は、この脱穀 をもって無事完了しました。収穫したもち米で12月の餅つき会が米づくり体験最後の活動となります。 来年も新型コロナ感染対策を徹底して事業を継続したいと思います。参加者の皆さま、関係者の皆さま、 約半年、大変お疲れ様でした。ありがとうございます。



#### 台風の中の稲刈り~初めての稲刈り体験~

小学4年 藤森杏花里

私たちが春の暖かい日差しを受けて植えた稲の 苗。頑張って草を抜いた稲の苗。

それを食べるため、初めての稲刈り体験に行きまし た。初めてと言うのは、いつも家の行事と重なり行 けなかったので、稲刈りは初めてという事です。

田んぼの中に入り、釜で刈り取ります。ぐるっ、 ジョキン。ぐるっ、ジョキン。

最初はコツがうまく掴めなかったのに、段々楽しく なってきました。ちくちくとイネが刺さりますが、 あまり気になりません。

夢中になって作業していると、時折パラパラと雨 が降ります。少し涼しいです。

でも突然、ざあ一つ!雨が強さを増し、はざがけは 中止に。稲刈りの記念写真を雨の中撮りました。

オイコスの皆さん、こんなに楽しい稲刈り、あり がとうございます!お米を食べる前に、たくさんの 苦労が詰まっているからお米は美味しいんだな、と この身で感じました。

オイコススタッフ 金室



## ご飯ができるまで

小学5年 下田 哲大

ぼくは八千代オイコスや家族のみんなで米作り体 験をしています。

田植えの時や稲かりの時は、かがんで作業をしたの でこしがいたくなりました。

オタマジャクシや水生昆虫がたくさんいたので楽 しかったです。また、マムシやネズミを初めて見た のでとてもビックリしました。

ぼくはみんなで田植えや稲かりをやったけど、昔 の人は全ての作業を数人でやっていたと農家の人か ら聞きました。みんなでやっても大変な作業なのに 昔の人は数人でやっていたかと思うと昔の人は体力 があるなと思いました。

はやく自分で作ったご飯を家族みんなで食べたいです。





# 育てたお米でお餅つき ~米づくり最後の締めくくり 収穫祭~

2022年オイコス主催行事最後を飾る「餅つき会」が12月18日(日)行われました。冬の厳しい朝農業交流センターに応募会員14家族49名、オイコスメンバー18名(家族含む)が集合。賑やかにスタートしました。

オイコスの餅つきは 2007 年(平成 19 年) 12 月、オイコスメンバーのみで萱田の農家の庭先で始まりました。長い時を経て我々独自の手法も考案し、沢山の餅を仕上げられるようになりました。今は5 月の田植えから始まる楽しい行事となりました。せいろで餅米を蒸し、餅つき機で 80%程こねて、臼と杵で最後の仕上げです。小さな子どもと一緒に重い杵を振り上げてついた餅は美味しく召し上がって頂いたことと思います。来年もまた田植えからの米づくりに参加し、楽しい思い出を作っていただきたいと思います。ところで、餅つきの行事はいつの頃から行われる様になったのでしょう?餅つきの歴史は古く平安時代から広まったとされている様です。日本には稲作信仰と言うものが有り、稲には「稲魂」が宿り神聖なものと考えられ、

まったとされている様です。日本には稲作信仰と言うものが有り、稲には「稲魂」が宿り神聖なものと考えられ、 米や米から作るお酒を神に捧げる習慣が今日まで続く餅つきとなったとされています。因みに、成田山新勝寺の大 しめ縄は稲東を模した型で作られて掲げられています。そんな思いで見ることも面白いのではないでしょうか。

オイコススタッフ 川瀬









#### 自分で作ったおもちの味 ~来年もまたこのおいしいおもちを~

井上 花菜

私はオイコスで田植えから稲刈りまで、お米作りをけいけんすることができました。田うえでは長ぐつをはいて田んぼに入りましたが、長ぐつがどろにはまってしりもちをついてしまいました。最後にはくつ下で田んぼに入って、いっしょうけんめいに田うえをしました。稲刈りではお父さんが切る係で、私がたばねる係でがんばりました。と中で小さなマムシが出てきて、すごくおどろきましたが、オイコスのおじさんがかまでマムシをたおしてくれて、すごいと思いました。

最後にみんなで作ったお米をもらい、もち米はみんなでおもちを作って食べることができました。もち米をむす時のにおいが家のすいはん器でお米をたく時のにおいとちがっていておどろきました。おもちをつくきねは私には重かったですが、おもちをきねでつくことは楽しくて、きねの音がとてもよい音だと思いました。出来たてのおもちはふっくらとしていて、アンコやきなこと食べるととてもおいしかったです。出来たてのおもちと家で食べるおもちとでは全然ちがっていました。もしかして自分で作ったもち米で自分たちでつくったおもちだからこそおいしかったのかもしれません。

今まで私はおもちは何を食べても同じ味がするものだと思っていましたが、オイコスで食べた出来たてのおもちは本当においしかったです。できれば来年もまたこのおいしいおもちを食べたいと思います。

#### みんなで作った餅米による餅つき会 ~大きな杵を持って~

飯島 淳

2022年、初めて八千代オイコスの米作り体験に家族みんなで参加させていただきました。米作り作業の一部ではありましたが、田植えから収穫まで通しでできたことは、大変貴重な経験となりましたし、自然豊かな場所で、子供達もカエルや昆虫と戯れて楽しい時間を過ごせました。

今回はその米作り体験で作った餅米を使った「餅つき会」ということで、みんなワクワクしながら参加させていただきました。米を研いで、蒸して、機械でついて、それから人間が杵でついてと、参加者全員分の餅をつくとなると意外と時間と労力がかかりますね。私は参加者の大人の中でも若い方だったので、大きな杵を持って何度かヘルプでつかせていただきましたが、さすがに翌日は筋肉痛になりました…事前に機械でついてなかったらどうなっていたのかと、餅つきの大変さを実感。ただ大変だった分、いただいた餅がとても美味しかったです。つきたての餅があんなに甘く柔らかいことも感動でした。

この企画ならびに会場、道具の準備をいただいた オイコスのメンバーの方には感謝いたします。あり がとうございました。

#### エコウォーク22年秋 ~季節の移ろいを楽しみながら~

10月23日(日)抜けるような秋の晴天の下、市民参加の皆さん、オイコススタッフが中央駅に集合し、ウォーキングを楽しみました。晴天を待っていたように、市内では多くの行事が行われ、秋の日を楽しむ様子が見られました。

博物館、大多喜ガス前の道を辿(たど)り、宮内のケヤキ並木は往時を偲ぶ大木が天を突き聳えています。 16号線を横断する歩道橋は眼下を疾走する車の群れが迫力満点。村上団地で休憩したところ、ゴミが目につき、予定より早く清掃活動開始。雑木林が広がる村上緑地公園は家族連れが多く訪れ、咲き終わったヒガンバナが翌年秋開花に備えパワーを溜める為、葉を広げていました。来年秋の開花が楽しみです。黒沢池公園は真ん中に大きな池が広がり、大小、また色とりどりの魚が遊泳、子どもの歓声が広がっていました。私たち大人も楽しみました。

今回のコースではあまりゴミの投棄が見られないと考えていましたが、多くの 眼があると違うもので、相当数の量を集めることができました。清掃活動は、人 が生活し、動き回ることで、永遠に続く活動かな、と改めて感じました。

オイコススタッフ小林



▲村上団地



▲ゴール 黒沢池公園

## ホタル鑑賞会のタベ22 ~ホタルの光のページェント~

8月7日(日)。しばらく続いたうだるような暑さから、 秋を思わせる風が吹く日を経て、日曜日の夕方、家族参加 38名とオイコスメンバー9人が、ホタルの光のページェ ントを楽しむイベントに集まりました。

ホタルが飛ぶ条件、曇り空で風が弱い時、今日はこの条件がピッタリです。今までの観察から、ホタルは、午後7時30分を過ぎると出現する事が分かっていますが、今日は、その時間を待たず、淡い光が、田んぼや木々の茂みから湧き出て、歓声が上がります。

子ども達からは、「頭に止まった!」、「手の平にとまった!」、と声が上がり、家族でカメラに収めるシーンがあちこちで見られました。ホタルが出現する場所があちこちにあり、人の群れが移動します。

何時までも観ていたいのですが、30分以上も過ぎ蒸し 暑さが増した頃、名残惜しくその場所を後にし、一年に一 回の邂逅(かいこう)の時間が過ぎました。また、来年、出 会える事を期待して。 オイコススタッフ 小林

#### ホタル鑑賞会

8月7日のホタル鑑賞会 お世話様でした。 私は 東京生まれで、自然界でのホタルを見た事 が無かったので、とても楽しかったです。

草むらの中の、小さな沢山の光と数匹が飛び交い、皆さんの歓声にキョロキョロしてました。また、一匹が主人の手のひらに止まり、光を放っていたのは自然ならではの光景でした。欲を言えば、もっと沢山飛び交って欲しかったですが、生息地が少なくなっている現在、贅沢は 言えませんね。いつまでもホタルが生息出来る環境が、残る事を祈るばかりです。

役員の皆様方にも感謝いたします。

前川憲子





### ミニ川の学校開催 ~ボーイスカウトとのコラボ~





1回目の8月28日は、ボーイスカウト八千代第4団です。朝から雨でしたが、ボーイの担当者とオイコスが花輪川の水位及び天気予報を確認して実施しました。ボーイ23名とオイコス6名で対応しました。先ず花輪川の周囲のゴミ拾い活動後、喜季牧場で生を見学してオイフスベース(土棒)に到差しました。川に入る準備

後、高秀牧場で牛を見学してオイコスベース(土橋)に到着しました。川に入る準備を済ませて、八千代オイコスの紹介とミニ川の学校のプログラムの説明。網の使い方生き物がいそうなポイントなど説明を聞いた後3つのグループに分かれて川に入りました。網の使い方など最初は不慣れでもだんだんとコツをつかみ、ザリガニ、メダカ、ヨシノボリ、ドジョウ、オニヤンマのヤゴ、ゲンゴロウの仲間…など捕まえました。各グループからいち押しを発表してもらいました。

2回目の10月10日(祝)は、ボーイスカウト八千代第2団です。ボーイスカウトデイの事業の一環として、ボーイスカウトの以外の子どもたちも参加しての活動でした。参加者30名、オイコススタッフ6名で対応しました。活動内容は、第4団と同じとしました。

オイコスにとっても、元気をもらったボーイスカウトとのコラボでした。

オイコススタッフ 桑波田



#### オイコス活動舞台、花輪川のシンボルツリー 銀杏

オイコス活動ステージ、花輪川土橋付近に大きな銀杏(公孫樹)の大木が4本、看板の如く聳えている。世界で最古の原生樹種の一つで"恐竜の中生代でも既に生存していた木である。

私が米国のワシントン州に出張した時に銀杏(GINGKO)の木の化石で作られた"ペン立て"を買った事がある。現在銀杏の木は"生きた化石"と

呼ばれている。銀杏の木は雌雄異株で、4~5月に新芽が伸び開花して受粉する。9~10月受精し、10月~11月頃種子は成熟して落果する。銀杏は橙黄色で軟化し、青酸を含み臭気を発する。花輪川土橋のポンプ室周りは、銀杏の絨毯となる。私は銀杏の外種皮を除去して網袋に入れ、川で洗って、我が家のベランダで干す。出来た銀杏は稲の脱穀やエコウオークに来られた会員の方々に配った。

銀杏の木は秋には黄葉して皆を楽しませ、昔から神社、寺院の境内に耐火用に植えられ、又銀杏は坊さんの栄養食として重宝された。幹は碁盤やソロバン、まな板等に利用されている。現在は街路樹として採用され、我々の生活に密接に役立っている。今後も今まで通り花輪川の銀杏の木を大切に見守りたい。

オイコス スタッフ 新谷

#### 里山・谷津と斜面林

里山は、人が自然に働きかけて生まれた空間です。具体的には、田んぼ、畑、山、集落など含まれます。かつては、人々が暮らしに必要な資材を里山から得ていて、人が里山を管理して暮らしと密接につながっていました。人が管理する(手を入れる)ことで、生物の多様性も保全されてきました。

谷津は台地に低地(湿地)が入り組んだところで、特に田んぼとして利用され、米作りをしてきました。千葉県北西部ではこのような場所を「谷津」と呼んでいます。この谷津を縁取る形で斜面林がつながっています。

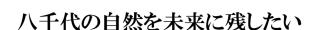
斜面林は、湿地の生き物が山、畑などに移動するだけでなく、日当たりの良い斜面を好む植物や湧水が見られるなど、斜面林も生物の多様性が維持される重要な場所です。

八千代オイコスのホームグランドは、花輪谷津と呼ばれ花輪川が流れています。活動場所の土橋の斜面林には、春一番にニワトコが芽吹き、スミレの花が咲きます。晩夏にはキツネノカミソリが咲き、秋には、ウラシマソウが赤い実を付けます。夏に見られるハグロトンボは、川と斜面林・山がある環境で生息します。









佐藤 大樹

佐藤大樹(さとうたいき)と申します。現在 45 歳です。私は八千代市に小学生の時に市川から引っ越して来ました。

自然溢れる八千代市、夏には田圃沿いの道ではホタルがたくさん飛び交い、川にはゲンゴロウやメダカ等、捕まえて遊んだ記憶が鮮明に残っています。今ではとても良い思い出です。八千代市は自然がまだたくさん残っています。ですが近年は生き物達は減少してしまい、その光景も、生き物も見れなくなってしまいました。

仕事はプラントエンジニアとして、ゴミの焼却に携わる仕事をしています。八千代市では企業や一般家庭から一日に約 100 トン以上になるゴミが焼却場に持ち込まれます。私は八千代市ではなく違う市の焼却場に勤務してるのですが、なんと!一日に約 700 トン、多い時は 1000 トンを超えるゴミを処理しています。凄い量です。高温で燃やし、1000℃近い発熱によって大型のボイラーで蒸気を発生させ、その蒸気を自社や近隣の温暖設備に用いる、また、併設された大型発電タービンにも蒸気を用い高回転さて発電、自社や近隣へ電力を供給する。高温で焼却する事によってダイオキシンや、ばいじん、薬品を使い CO、SOX、NOX 等、有害物質の発生を最小限に抑える事にも成功しています。ゴミを減らす事は簡単ではありませんが自らの意識の変革、再利用を心掛けて行きたいと思います。小さな息子に川遊びを経験させたくて、ネットでオイコスが管理してくださってる花輪川の事を

小さな息子に川遊びを経験させたくて、ネットでオイコスが管理してくださってる花輪川の事を 知りました。まだ入れて遊べる川が八千代にあってくれたのは驚きと喜びでした!花輪川では、懐 かしい生物達と澄んだ川がまだ残っていてくれた。子供も川遊びに大満足してくれました!

この大切な自然を末永く未来に残したい。息子も花輪川での川遊びは大のお気に入り♪夏には毎年遊びに来ます。私にも自然保護の為に何か出来る事があるんじゃないか?八千代のこの自然を未来に残したいと思い、オイコスのスタッフに参加させて頂いた次第です。微力ながらも何か一つでも、お役に立てるよう今後ともお世話になりますが宜しくお願い致します。

# オイコスの活動を知り、心惹かれて即入会~ボランティア・カフェをきっかけに~

栄元 雅彦

以前から地域のボランティア活動に興味があり、昨年4月、八千代市のボランティア・カフェの場でオイコスの活動を知り、心惹かれて即入会、現在まで活動に参加させて頂いています。

これまでエコウォーキングやホタル観賞など楽しいイベントに参加しましたが、その中でも米作り体験が強く心に残っています。生まれて初めての米作りではスタッフの先輩から親切丁寧なレクチャーに、田んぼで何度も転びそうになりながらも、緑豊かな自然の中で一緒に汗をかき、これまで経験したことのない非日常的な体験を様々な親子の方々と楽しく共有することができました。

今年もまたスタッフや参加者の方々と楽しい時間を過ごせればと今から心まちにしております。

#### 編集後記

活動を支え、一緒に楽しむ仲間が増えたことは、嬉しいトピックでした。

川や田んぼで自然にふれ、参加者のみなさまはコロナ禍、とても 貴重な体験だったと思います。子どもたちは、自然と対話し、八千 代の自然を考えるきっかけになったことでしょう。(J-TANA)



発行責任者:金室 彰 事務局&問合せ:小林

**☎**090−1842−8738

mail: info@yachiyo-oikos.jp

